

酒々井町

郷土研究会会報

第112号

平成16年4月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

酒々井の道あれこれ

青木 朝次



江戸時代に成田街道の宿場町として発達した酒々井は、今も昔も交通の要衝にあり、国道五一号と二九六号が上本佐倉で交差し、近年交通情報で道路渋滞の報もしきりと聞かれる成田街道だが、その起源はいつなのかは定かでない。成田山信仰により往来が盛んになり、日本橋を起点として千住、八幡、船橋、大和田、白井、酒々井、寺台（成田山）の八箇所の宿場が設けられ明治初年頃まで宿場としての機能をもっていた。日本橋から成田までは一五里二七町（約六三キロ）あり、成田詣では往復三泊四日の旅であった。その頃芝山仁王尊の信仰も盛んになり、江戸からの参詣客は酒々井町新宿（本佐倉）の米屋旅館（現在サイゼリア

の所在地）前から右折して下台の谷上りから墨の大川戸、住木戸、富里の高松を通り、高松から一直線に芝山に至り参詣した。酒々井町内には「従是芝山」の道標が六基もあり、一部分は今も芝山道として昔の姿のまま残されている。芝山参詣客の中には芝山仁王尊の参詣を済ませて三里塚を経て、成田山参詣に廻る人もかなりあったようである。



時代の推移に伴い社会全体の生活が安定すると共に、旅をする人達は

徒歩の無い楽な行程を望むようになり人車鉄道が考案された。日本で最初は日本橋から新橋間が開通し、その後地方でも各所で計画された。下総にも成田、富里、二川、多古、三里塚、八街線なども計画された。県内では有名な人車鉄道は野田（明治三十三年）東葛（明治四十三年）、同年に茂原と長南の間に開通したもの等である。

明治四十三年に成宗電気軌道が成田から不動尊間の一キロ、翌年には成田から宗吾間の四、二キロが開通した。しかしこの電気軌道にも時代の流れの現実は厳しく第一次世界大戦により値上がりした鉄鋼材のため大正七年に複線を単線にしてレールを売却した。次いで第二次大戦下では鉄道全体が軍に徴用され以後バスの運行となった。ちなみに徴用前はチンチン電車の愛称で親しまれていた。今でも不動尊前の駅の跡、夢香台のトンネル、宗吾門前の駅の跡や軌道敷などが往時を偲ばせる。

成宗電気鉄道と酒々井町との関係に少し触れてみると、まず成田より佐倉までの軽便鉄道を計画した。成田と佐倉間の中心が丁度酒々井町の中川に当たるので中川に会社の事務

所と変電所を置くことで申請した。しかし、成田と宗吾間の開通になり中川地区の本社事務所の設立や変電所の建設も実現しなかった。時に明治二十九年であり、JRの成田線が明治三十年一月に開通している。

JR成田線建設は難工事であり、工事に必要な煉瓦や砂利などを船で中川河岸に陸揚げし、馬車による運搬で困難を極めて架設されたのが中川のレンガ橋である。最近の複線化で味気ないコンクリート製になった。

また京成電鉄についても宗吾のトンネル掘削の際大量の資材の運搬は大変なことであった。JR酒々井駅まで運ばれた資材は、田畑を埋め立て、所城山(現在中央台一丁目)を切り開きトロッコでトンネルまで運ぶという大工事であった。上岩橋地区の土地は工事終了後原型に復し、中川地区はそのまま返還されて処所にその面影が残っている。駅の設置場所の上岩橋地区と中川地区とで設置合戦になったが、大佐倉と宗吾間の中心が中川地区内にあり駅用地の無償提供などで中川地区内に設置が決定した。ちなみに酒々井と宗吾間が二、一キロ、酒々井と大佐倉間が一

キロである。その当時宿場町であった酒々井には人力車が四十数台もあつた。今では一軒に自家用車が二台、三台と置かれている。隔世の感があります。

目黄不動尊方面に

参加して

執行 正勝



午前十時三十分JR平井駅に到着。賑やかな駅前商店街を通り越して東側へ、三十分で荒川の近辺にある最勝寺に着く。貞観二年(八六〇年)慈覚大師円仁が創建した天台宗の古刹。本尊は釈迦如来。目黄不動明王は二童子を従えた三尊形式の坐像で高さ一二七cm、天平年間(七二九〜七六六)に良弁僧都が隅田川のほとりで不動明王を感得され自らその御姿を刻んで本尊として堂舎を建立した。最勝寺の末寺の東栄寺の本尊であつたが明治の神仏分離により本寺に遷座されたと住職より聞く。殊に三代將軍家光の崇拝が厚く、家光は江戸の町を守るため五色不動をもうけた。次は平井駅まで引き返し北側へ、約

十分で燈明寺(平井聖天)に着く。宗祖に興教大師覺鑊を仰ぐ新義真言宗の名刹、今より千有余年前弘法大師の流れをくむ元暁法印の手により一本の松の木の根元より出現した歎喜天を祀るために開山された。

聖天は本名歎喜天で仏教の守護神である。インドのヒンズー教の神様で知恵の神、除災、招福の神として祀られている。形は象頭人身で男女二天が抱擁する姿の像が多く作られた。秘仏とされているので拝観できなかった。

続いて次の駅まで行き亀戸天満宮を参拝した。江戸時代から学問の神様として信仰を集め梅や藤の名所として親しまれている。菅原道真の像を作り祀ったのが創建といわれている。参加者は二十一名であつた。



人身象頭の男女二体が抱擁した像は男体は聖天の本體、女体は觀世音が聖天の女身に変化し、男性の力と女性の愛を和合した姿で、象面をしているのは百獸の大王としての力を示したものだといふ。

鎌倉の旧跡を訪ねて

岡田 利光

早朝降っていた雪がやみ、晴れてきた朝7時JR酒々井駅に24名が集めた。鎌倉で江ノ電に乗り換えて極楽寺駅で下車した。有名な茅葺きの極楽寺の山門に雪がかぶりとても美しい風情である。

極楽寺は正天元年(一二五九年)北条義時の三男重時の開祖で不動様が祀られ、昔七堂伽藍を備えた大寺も今は静かな佇まいである。

そのまま長谷方面に20分ほど歩くと参拝者で賑わう長谷寺に着く。像高9m余の金箔十一面観音菩薩は日本最大の木彫観音とされ立派だ。宝篋印塔陽刻板碑も七百年前のもので歴史の深さがにじみ出ている。また境内北側にある弁天堂は薄暗い壁面に弁財天と十六童子が刻まれて神秘的な雰囲気漂う。

気分一新見晴台に出て由比ガ浜、鎌倉の街を一望し由比のみぎわに立つ白波を見るのができた。

次に鎌倉大仏殿高德院に向かう。仁王門から境内に入ると正面に大仏が鎮座している。この大仏殿は七百

五十年前の造立で美男子な阿弥陀如来であり、最初は殿舎の中に安置されていたが津波で破壊され現在のようになつたといわれている。背後の観月堂隣に「美男におはす夏木立かな」の与謝野晶子碑があった。本日予定の名勝探訪を終えて長谷駅から鎌倉駅に戻り解散となった、食事のあと頼朝が現在地に移したといわれる鶴岡八幡宮に参拝した。天候もよく暖かい一日であった。



高德院の美男子

七草粥を食べる会

大野 廣

郷土研究会に入会以来毎年この「七草粥を食べる会」には参加していますが、役員と当日朝早くからお手

伝いをされている方々のご苦勞に感謝申し上げます。受付の所には本物の七草がプランターに植えてありこの会の引き立て役になっています。さらに会場に入ってみると七色のカードに七草の名前で七区画に並べられているテーブルには、本日の献立と一緒に絵入りの七草の説明書が添付されていて心憎いばかりの配慮であります。

早速献立表に目を通すとお粥は私にとつては大好物ですがそのほか、煮物、揚げ物、和え物などどれをとつても体に優しいものばかりです。特に「おにぎり」に使ってあった「あわ」は食べ方は違いますが昔よく食べました。

子どもの頃、この季節のおやつといえば「寒餅とかき餅」でした。この「かき餅」を自分で火鉢で焼いてたべました。もう一つの思い出の食べ物「寒餅」で特に「もちこし餅」でした。自家製の黄な粉で「安倍川餅」にして食べたあの独特の味を思い出しました。このような昔の食べ物を食べる会に参加することによって、さらに昔のいろいろな食べ物の味などが思い出されてきます。酒々井町に

は伝統的な故郷の食べ物がないのでこの「七草粥を食べる会」ぐらいは後世に残してゆきたいものです。

七草粥を食べる会献立表

平成16年2月13日

1. 七草粥 米、せり、なずな、ごぼう、ほこべ、ほとけのざ、すずな、すずしろ
2. おにぎり 米、餅米、あわ
3. 煮もの こんにゃく、はんぺん、ごぼう、しいたけ、だいこん、はす、ちくわ、とり肉
4. 揚げもの ごぼう、にんじんのかき揚げ
5. 和文もの ほろれん草のマヨネーズみそ和え
6. おひたし だいこんの葉、あぶらあげの煮びたし
7. 香のりもの さば
8. デザート 白三あずき、いちご

※ 材料の都合で献立表と異なることがあります。

郷土研究会

早春の佐倉道を歩く

丸山 正義

2月20日午前9時、参加23名今日の予定コース・桜木町を出発。暖かくなるとの予報に反して風も冷たく、「春浅し」の感である。

広い国道を三十分程歩き、智證山大聖寺に到着。本堂には江戸時代作の大日如来・阿弥陀如来他2体が、また不動堂には平安・鎌倉期の不動明王2体がそれぞれ安置されているとのことだが、いずれも扉が固く閉ざされていて拝観出来ず、残念だった。その他、古色蒼然たる仁王門と鐘樓が平安期創建の古刹の面影を今に伝えている。

大聖寺の脇道を少し行つた所の、八幡神社（御祭神第15代応神天皇）に参拝。高木副会長から、鳥居の形や神殿の屋根の造り、千木の先端の切り口の違い等について説明を受ける。

再び佐倉道に戻り、御成街道と交わる十字路を過ぎた辺りから急に道幅が狭くなり、両側に竹林が続き、その間に古い民家が点在している。

神社を出てから約40分で、今日の終点「吉岡交差点」に到着。近くの一四街道市消防資料館一を見学。

かつての分教場の廃校舎の中に、纏・拍子木・手引きポンプ等昭和初期からの懐かしい品々が展示してあり、なかでもテレビ東京の「なんでも鑑定団」に出品した「木製水鉄砲」に関心が集中した。

ここで解散となり、バスで四街道駅へ出る予定だったが、まだ昼には間もあり一歩きましようとの元気なご婦人方の先導で、全員約40分のバス道を完歩。おまけウオーク付きの満ち足りた一日だった。

児等去りし分教場跡梅匂う

崩れいし藏壁覆ふ藪椿

会計報告

七草粥を食べる会

(平成16年2月13日)

参加者69名 招待者9名 計78名

収入 会費 700円

700円×69=48,300円

雑収入 15,000円

計 63,300円

支出 材料費 51,983円

諸雑費 9,009円

計 60,992円

残 2,308円(繰越し)

芝山方面 参加者39人

収入 会費 2000円

2000円×39=78,000円

支出 昼食代 40,950円

諸雑費 32,850円

73,800円

残 4,200円(繰越し)



大聖寺鐘樓

平成16年度事業計画

事業名	1期			2期			3期			4期		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
定期総会		○										
会報発行	○			○			○			○		
講座・学習会	郷土史講座							○				
	町内史跡巡り				○							
	史談会	○	○		○	○	○		○			○
	古文書学習	○		○	○	○	○		○	○		○
	街道を歩く	○					○		○			
研修・見学会	一泊見学会				○							
	日帰り見学会		○								○	
	名勝探訪	○					○		○			○
野草の会	七草粥食べる会	○										
	野草観察会				○					○		
郷土研究発表会							○					
役員会・運営委員会	○		○			○			○			○

酒々井町郷土研究会平成16年度役員・運営委員名簿

役名	氏名	住所	電話
顧問	沖田 善三郎		
会長	青木 朝次		
副会長	上田 悦子		
"	高木 正浩		
会計	丸山 正義		
"	林 芳子		
監事	蒔 玉子		
"	桜井 徳三		
運営委員	鶴岡 知子		
"	上野 和子		
"	寺本 恵美		
"	近田 トメ		
"	有田 政勝		
"	行武 政市		
"	執行 正勝		
"	佐藤 照子		
"	矢野 三雄		
"	浜口 信義		
"	蓑輪 光正		
"	犬島 正子		
"	久我 かず子		
"	岡田 利光		
"	古川 國雄		
"	喜沢 勝		
"	福田 照子		
"	木村 雍子		
"	斉藤 ヨシ		

第二十八回定期総会報告
 平成十六年二月一日午後一時より
 中央公民館講堂にて第二十八回定期
 総会が開催されました。当日は好天
 に恵まれ、八十名の出席会員のもと
 平成十五年度の事業報告および決算
 報告、平成十六年度の事業計画案と
 予算案が審議・承認され会議を終了
 しました。

訂正

「野草観察会に参加して」カット
 部分の訂正 ツルトリイバラ
 サルトリイバラ



見学

案内

野草観察会



四月八日 (木)
雨天中止

東伝院周辺 (馬橋方面)

今年も桜の開花は早く、野草の生育はどうかなど戸惑いながらの場所を選び。花まつりの日、馬橋の谷津を観察してみませんか。セリ、ナズナ、コオニタビラコなど春の七草も探してください。酒々井の豊かな自然を実感できる観察会になると思います。

佐倉道を歩く

第3回

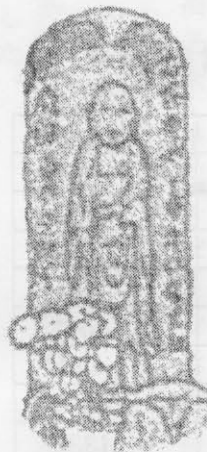
四月二十一日 (水)

雨天代替二十三日 (金)

前回の吉岡の交差点から出発して国道五十一号を佐倉へ向かう。大型車がボンボン追い越していく交通の激しい通りである。坂戸交差点に来ると、八街と成田

との二つの道の間には、道標を兼ねた馬頭観音と地藏菩薩が安置されている。

佐倉市内に入り、国道から斜め左に折れると、馬渡の集落に入る。江戸時代に水陸交通の要の宿場で旅館が五軒ほどあった。ここには江戸時代天保元年創業の造り酒屋もある。家並みを抜けると鹿島川沿いに広がる水田に出て、間もなく神門交差点に到着。今回はここまで。徒歩二時間半八キロの行程。



坂戸交差点の道標

町内史跡巡り

(教育委員会後援)

五月九日 (日)

雨天代替五月十六日 (日)

出発は中央公民館前、五一号わきから二九六号をくぐり古道芝山道を上本の交差点に抜けて経胤寺、五良神社、西に向かって成城台裏の田圃道を行き愛宕神社、長熊廃寺跡、エクトピアを廻り鬼塚古墳のある隣保館。ここで休憩昼食をとります。本佐倉の神明大神社、吉祥寺、双体道祖神、本佐倉城跡(整備中にて残念ながら登れませんが)を左手に眺めながらホタルの里、勝蔵院、中央公民館まで全行程約八kmです。

郷土研日誌

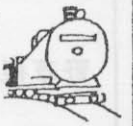
月日	内容	参加人員
12・13	編集会議	5
12・25	印刷	4
12・26	会報発送	21
16・1・9	会計監査	8
1・17	総会準備会議	16
1・18	鎌倉方面	24
2・1	総会	80
2・6	運営委員会 (道標)	19
2・7	史談会	9
2・12	七草粥買物	9
2・13	七草粥を食べる会	78
2・16	芝山方面下見	2
2・17	道標打合せ	19
2・17	古文書を読む会	10
2・20	佐倉道を歩く	23
2・28	研修部会	6
3・2	日帰り見学会 (芝山)	39
3・5	編集会議	6
3・6	史談会	12
3・10	運営委員会	20
3・12	編集会議	6



一泊見学会

五月十一日(火)

五月十二日(水)



会津方面

宿泊先 ホテル観山

宮〇二四一(三三三) 二二二三三

大塩裏磐梯温泉(北塩原村)

喜多川の東方、大塩川に臨んでい
る湯治場。秘湯に数えられる。

大塚山古墳(会津若松市)

古墳時代後期の前方後円墳で全長
九〇・五メートル、昭和四十四年
十一月に国の史跡に指定された。

鶴ヶ城(会津若松市)

享徳元年(一三八四)葦名直盛が
最初に築いた黒川館が前身。のち
伊達、蒲生、上杉、加藤と歴代城
主が移り変わり、徳川家光の弟、
保科正之が封じられ、九代松平容
保のとき四〇〇年続いた名城も明
治維新を向かえ消え去った。

昭和四十年九月、五層の天守閣
が本丸跡に復元された。

御薬園(会津若松市)

葦名氏の頃から別荘として利用さ
れ、松平氏時代に入り寛文十年、
二代正経が園内の一部に各種の菓

草を栽培させた。庭は大名庭園と
して昭和七年に国の名勝に指定
された。

松平氏廟所(会津若松市)

ここは二代正経から九代容保ま
では土津神社に神葬されたが、十
代容大以下は奥の松平家墓地に
埋葬されている。

勝常寺(湯川村)

会津中央薬師として昔から会津
仏教文化の中心となった寺院。創
建は弘仁元年(八一〇)徳一の開
基といわれ、現在堂宇は守門・薬
師堂・観音堂・本坊(客殿)・庫
裏・鐘楼等で、木造薬師如来像ほ
か三十体余りの仏像を安置、十二
体は国の重要文化財に指定され
収蔵庫に収められている。京都を
除いて、一ヶ寺にこれだけの古仏
が保存されている例は珍しい。

須賀川牡丹園(須賀川市)

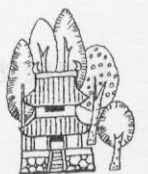
明和年間(一七六四〜一七七二)
薬種商の伊藤祐倫という人が。撰
津国「山本山(宝塚市)」から数
本の苗木を持ち帰り植栽したの
が始まりで、昭和七年、国から名
勝として指定を受けた。見頃は五
月中旬。

名勝探訪

志村不動尊方面

六月四日(金)

雨天代替七日(月)



江戸時代宿場町として栄えた「中
山道板橋宿」の面影を求めつつ、今
年の大河ドラマの主役、近藤勇の最
後の地である不動尊(志村不動尊)
に寄ります。今は交通量が多く、ゆ
っくりと幻影にひたる事は難しいか
もしれません。この時期は日も長い
のでゆっくりと散策しましょう。

《あとがき》



今年の冬は二月が暖かく三月上旬
になって雪が降るなど朝晩寒い日
が続いたが、中旬以降暖かくなり、桜
も例年より早く開花いたしました。
四月を迎え、野草観察・町内史跡
巡り・名勝探訪そして佐倉道を歩く
など行事も盛り沢山です。
なかでも、今年の一泊見学会は東
北の秘湯大塩裏磐梯温泉に行きます
ので、ふるってご参加くださるよう
お願いします。

郷土研行事案内

平成16年4~6月

	4月	5月	6月
史談会	4月 休講	5月 8日(土) 13:30 公民館 「古今佐倉真佐子」⑩ 講師：高橋健一先生	6月 5日(土) 13:30 会議室 「古今佐倉真佐子」⑩ 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	4月 20日(火) 13:30 元 社会福祉協議会 「島田家文書」⑨ 講師：青木朝次会長	5月 18日(火) 13:30 元 社会福祉協議会 「島田家文書」⑩ 講師：青木朝次会長	6月 15日(火) 13:30 元 社会福祉協議会 「島田家文書」⑪ 講師：青木朝次会長
野草観察会	4月8日(木) 雨天中止 (問合せ 8:20~8:50 犬島) 集合時刻・場所 9:25 中央公民館 観察場所 馬橋方面(東伝院周辺) 観察後五良青年館にて昼食・勉強会 参加費 100円 弁当・飲み物各自持参 講師：亀井 香久乃 氏 14:00頃現地解散予定		
街道を歩く	「佐倉道」③ 4月21日(水) 雨天代替4月23日(金) 集合時刻・場所 8:40 JR酒々井駅 JR酒々井駅—四街道駅—バス—吉岡交差点…坂戸…馬渡…神門—バス—JR佐倉駅 (徒歩約8km) 解散予定 午後1時頃です。 途中お弁当を開く場所がありませんので、解散後の昼食となります。		
町内 史跡めぐり	「本佐倉・上本佐倉・根古屋方面」 5月9日(日) 雨天5月16日(日) 集合時刻・場所 9:00 中央公民館 参加費 100円 弁当・飲み物・敷物各自持参 公民館→経胤寺→五良神社→愛宕神社・長熊廃寺跡→エコトピア→ 隣保館(昼食)→神明大神社→吉祥寺→双体道祖神→勝蔵院→公民館 15:00頃解散予定 (一部コースに変更あり)		
一泊見学会	「会津方面」 5月11日(火)~12日(水) 申込受付;4月9日(金) 9:00~10:00 定員 40名 公民館ロビー 集合時刻・場所 9:00 7:00 中央公民館 参加費 21,500円 宿泊先 ホテル観山 電話 0241-33-2233 5/11 公民館(7:30)—猪苗代湖(昼食)—会津若松(大塚山古墳・鶴ヶ城・御菓園・ 松平家墓所)—大塩裏磐梯温泉 泊 5/12 ホテル—湯川村(勝常寺)—須賀川牡丹園—郡山(昼食)—牛久—成田—酒々井 キャンセル実施日5日前迄 青木() 皆様のご参加お待ちしております。		
名勝探訪	「志村不動尊方面」 6月4日(金) 雨天代替6月7日(月) 集合時刻・場所 8:10 京成酒々井駅 京成酒々井駅—日暮里—巣鴨—本蓮沼駅…南蔵院(志村不動尊)…本蓮沼駅—新板橋駅…寿 徳寺…近藤勇の墓…巣鴨—京成酒々井駅 (一部コースに変更あり) 弁当・飲み物・敷物各自持参 17:00頃帰着予定		